

数値目標

本計画の推進により目指す将来像「豊かな自然のもと、人と人のつながりがある益田」を実現するため、5年(本計画期間)をかけて目指す計画目標(KGI)と、5年後にKGIが達成できるように、毎年、進捗状況または達成状況を確認するKPI(年度目標)を設定し、施策の着実な実行により、目標の達成を目指します。

住んでよし

	現 状	将来(5年後)
KGI (計画目標) 住民の持続可能な観光に関する満足度	アンケート調査により現状値の確認中	令和7年度調査結果を持って設定
KPI (年度目標) 子ども教育プログラムの参加者アンケートで、「益田の魅力を伝えたい」と答えた児童生徒の割合	アンケート調査により今後計測予定	今後のアンケート調査結果を持って設定
市民に対する講演会等の意識啓発事業参加者アンケートで、「益田の魅力を伝えたい」と答えた人の割合	アンケート調査により今後計測予定	今後のアンケート調査結果を持って設定

訪れてよし

	現 状	将来(5年後)
KGI (計画目標) 来訪者満足度	93.4%	95.0% <small>(現状の水準を維持)</small>
KPI (年度目標) リピーター率	79%	80% <small>(現状の水準を維持)</small>
益田の魅力を感じる観光コンテンツ数	33件	45件

稼いで回してよし

	現 状	将来(5年後)	
KGI (計画目標) 観光消費額	19.0億円	23.8億円 <small>※計画改定時は最新値として確認可能なR11の値で達成状況を検証:22.8億円</small>	
KPI (年度目標) 観光消費額単価	宿泊 県内宿泊客	13,088円	年間: +100円 (5年後500円)
	県外宿泊客	17,206円	年間: +150円 (5年後750円)
	日帰り 県内観光客	3,777円	年間: +50円 (5年後250円)
	県外観光客	4,157円	年間: +100円 (5年後500円)
観光入込客延べ数	730,488人 <small>(R7速報値)</small>	882,000人 <small>※計画改定時は最新値として確認可能なR11の値で達成状況を検証:851,000人</small>	
観光を目的とする宿泊客延べ数	54,834人 <small>(R7速報値)</small>	60,000人 <small>※計画改定時は最新値として確認可能なR11の値で達成状況を検証:59,000人</small>	

KGI:5年(本計画期間)をかけて達成を目指す目標値

KPI:5年後にKGI(計画目標)が達成できるように、毎年、進捗状況または達成状況を確認する目標値

お問い合わせ

益田市 産業経済部 観光交流課

〒698-0024 益田市駅前町17-1(益田駅前ビルEAGA1階)

TEL:0856-31-0331 FAX:0856-23-4655

URL:https://www.city.masuda.lg.jp

益田市観光振興計画 2026 - 2030

概要版

なぜ観光振興に取り組むのか — 観光を地域の力に変えていく —

益田市の自然、食、歴史、文化は、地域の暮らしの中で育まれてきた大切な財産です。しかし、人口減少や担い手不足により、それらを支える基盤は厳しさを増しています。地域の魅力を守り、活かしながら未来へつないでいくためには、地域の内外を結び、新たな循環を生み出すことが必要です。

観光振興は、そのための有効な手段の一つです。観光は、益田の魅力を市外へ伝えとともに、人との交流を生み、地域への誇りを育みます。また、来訪者の消費は地域経済を支え、雇用や所得の循環、地場産業の振興にもつながります。

益田市は、来訪者の増加だけを目的とするのではなく、地域の暮らしと調和した「住んでよし、訪れてよし」の観光まちづくりを進めます。

益田市における観光とは — 郷土の強みを守り、活かすこと —

「観光」とは、有名な観光地を訪れることだけではありません。益田市には、全国的に名の知れた集客型の観光地は多くありませんが、石見神楽、高津川の豊かな自然がもたらす食の恵み、柴犬の聖地であることなど、世界に誇れる「資源の原石」があふれています。

そうした資源のもとで育まれてきた私たちの「あたりまえの暮らし」でさえも、外から来る人にとっては新鮮で、驚きや温かさとして心に響く価値となります。

行政はもとより、市民、事業者等が協力・連携し、益田の郷土に根付く資源一つ一つの質を高め、「観光地域としての益田市(益田ブランド)」を大きく育てていくこと。それが益田市における観光の考え方です。

位置づけと基本理念

01 計画の位置づけ

【計画期間】令和8年度(2026)～令和12年度(2030)の5年間

本計画は、益田市の最上位計画である「益田市総合振興計画」との整合を図り、観光分野の基本計画として策定するものです。観光庁の「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」を参考に、持続可能な観光地経営(DMOを中心とした体制)を目指します。

02 基本理念

みんなが、観光をまちの力に変えて、地域を豊かにする

基本理念は、観光振興に取り組むうえでの基本姿勢を示すものです。

市民・事業者・行政が共有するぶれない軸として、本市が大切にしている考え方を明らかにするものです。

将来像と行動指針

03 将来像

豊かな自然のもと、人と人のつながりがある益田

将来像は、観光を通じて人と人のつながりを育み、益田市の自然や歴史文化、人の温かさといった地域固有の価値が未来へ受け継がれていくまちの姿を示すものです。

交流の広がりが地域の活力を生み、「住んでよし、訪れてよし」の好循環が続くまちを目指します。

04 行動指針

住んでよし

- 地域の未来を担う次世代が、観光を通じて学び、働き、挑戦できる環境をつくる
- 地域資源の価値を再発見し、住民一人ひとりが自分のまちに誇りを持てるようにする
- 住民の理解と参加が広がるように、暮らしに寄り添う観光の土台と仕組みを整える

訪れてよし

- 地域の豊かな資源を磨き上げ、益田でしか得られない体験と物語の魅力を高める
- 訪れる人の目線に立ち、心地よく滞在できる受入れ・おもてなしの環境を整える
- 観光をきっかけに交流を生み、地域を応援し関わり続ける関係人口を広げる

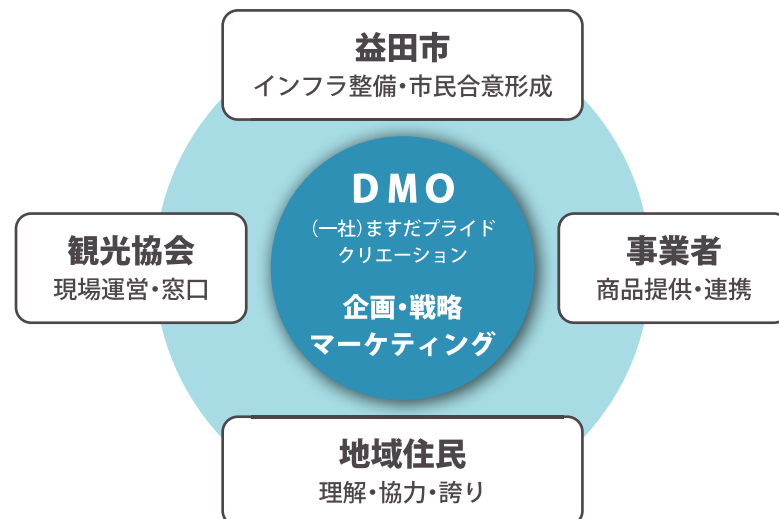
稼いで回してよし

- 観光を通じて人を呼び込み、観光消費を地域の収益につなげる仕組みをつくる
- 地場産業と観光をつなぎ、観光による消費が地域の中で経済として巡る仕組みをつくる
- DMO・観光事業者・住民が協働し、変化に強い地域経済へ育て、支える力を高める

計画の推進体制

DMOを中心に観光協会、益田市、事業者及び地域の関係者が連携して、本計画の施策を推進します。

本計画の推進体制は、関係者がそれぞれの役割を担いながら協働する観光地経営の枠組みとし、継続的に意見交換を行い、合意形成を図る仕組みを構築します。



将来像の実現に向けた9つの具体的な施策

★ 重点施策

施策の柱Ⅰ 住んでよし

シビックプライドの醸成

- 郷土の魅力の再発見
- 観光インナーブランディングの実施
- 守るべき資源の保全・継承

DMO	観光協会	益田市	事業者
○	○	◎	○

施策の柱Ⅰ 住んでよし

人材育成

- ライフキャリア教育の推進

DMO	観光協会	益田市	事業者
○	○	◎	○

施策の柱Ⅱ 訪れてよし

受入環境の整備

- 散策しやすい雰囲気や環境づくり
- 二次交通や観光ガイドの充実
- インバウンド誘客に向けた受入基盤の整備
- 閑散期対策

DMO	観光協会	益田市	事業者
◎	○	◎	○

★ 重点施策

施策の柱Ⅱ 訪れてよし

観光コンテンツ等の充実と商品化の仕組みづくり

- 観光コンテンツ等の充実
- コンテンツ作成時における商品化の仕組みづくり

DMO	観光協会	益田市	事業者
◎	◎	○	○

施策の柱Ⅱ 訪れてよし

交流人口・関係人口の創出

- 首都圏・関西圏をターゲットとした観光誘客の推進
- 姉妹都市等との都市間交流事業の推進
- 空港利用促進 (民間活動の支援、情報発信)
- 広域観光の推進
- 関係人口の創出

DMO	観光協会	益田市	事業者
○	○	◎	○

施策の柱Ⅲ 稼いで回してよし

運営体制・組織づくり

- DMO・観光協会・行政の三位一体の観光経営
- 重複事業の棚卸・最適化
- 持続財源の確保

DMO	観光協会	益田市	事業者
○	○	◎	○

★ 重点施策

施策の柱Ⅲ 稼いで回してよし

戦略的な観光マーケティングの推進

- マーケティングデータの収集
- データ分析に基づくターゲット設定
- ターゲットに応じたサービスや商品の提供
- ターゲットに応じたプロモーションの展開
- マーケティング活動の効果検証と改善

DMO	観光協会	益田市	事業者
◎	○	○	○

施策の柱Ⅲ 稼いで回してよし

ブランドイメージづくり

- 統一的なメッセージを用いた観光プロモーション
- キラーコンテンツの創出の検討

DMO	観光協会	益田市	事業者
◎	○	○	○

施策の柱Ⅲ 稼いで回してよし

地域内経済循環の促進

- 地場産業と観光産業の連携促進
- 市内の飲食店等における地元産食材の活用促進

DMO	観光協会	益田市	事業者
◎	○	○	○